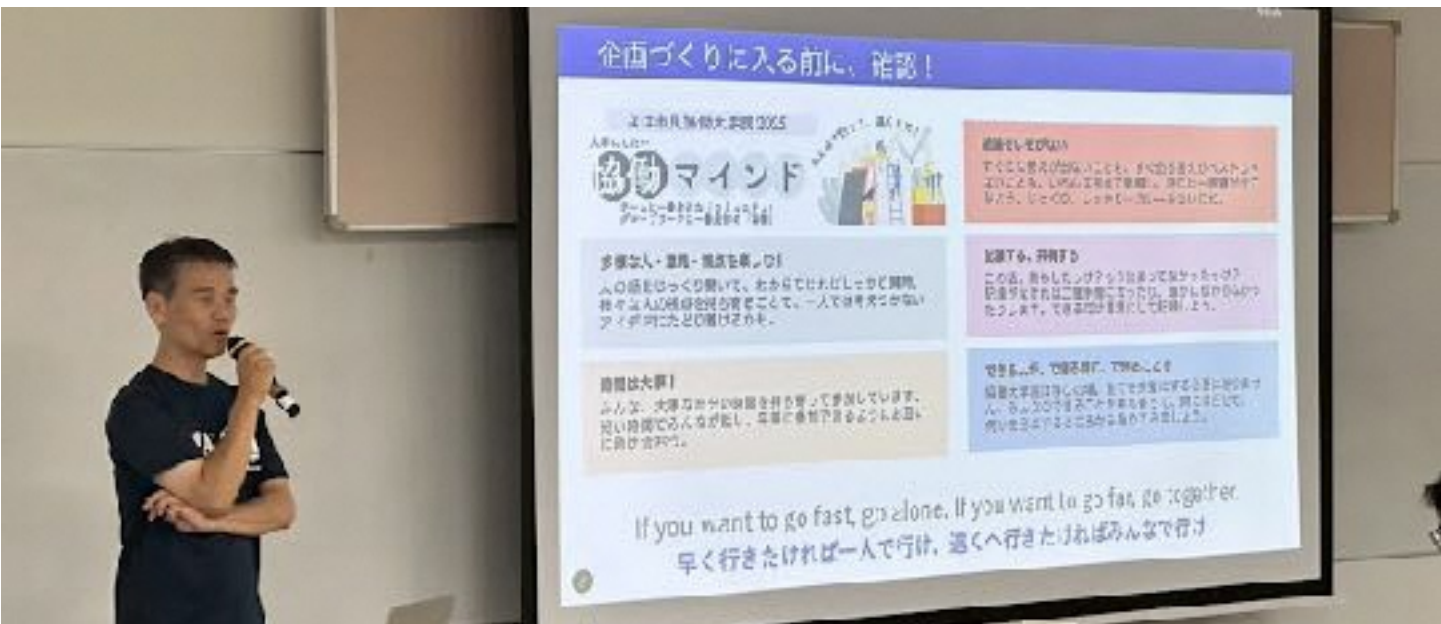




第4回講座 企画づくり・ アイデア出しのコツ

日時：9月16日（火）18:30~21:00
 会場：なは市民活動支援センター
 会議室①
 参加：受講生27名・チアーズ5名



なは市民協働大学院の第4回講座が9月16日に開催され、「地域課題をどう企画に落とし込むか」をテーマに学びと実践が行われました。講師はNPO法人地域サポートわかさ理事・事務局長／若狭公民館館長の宮城潤が務め、地域課題の捉え方やアイデアを生み出す工夫について、数多くの事例やヒントが紹介されました。

協働マインドを大切に

第4回講座の冒頭で強調されたのは「協働マインド」。

- ・ 多様な視点を楽しむ・結論を急がず、じっくり観察する
- ・ 「できる人ができる時にできること」を持ち寄る、などの姿勢が、持続可能で創造的

な企画づくりの土台になると学びました。

課題の捉え方と事例からの学び

前回までの反省を踏まえ、「課題が曖昧」「当事者の声不足」といった点が整理されました。大きな解決策を目指すよりも、小さくてもワクワク

くする一歩を大切にすることが提案されました。



若狭公民館の「朝食会」では、若者の声を軸に「入りやすく抜けやすい」仕組みをつくった事例が紹介されました。

ロジックモデルと「風水土種」

企画を考える際の道しるべとして「ロジックモデル」が紹介され、評価の視点もプロセス、インパクト（波及効果）、ロジックモデル全体の見直しの3段階で考えることが重要だと学びました。

さらに、「風・水・土・種」という視点で、土地に根ざす人・外から刺激を運ぶ人・寄り添い続ける人が関わり合うことで企画が豊かに育つことも共有されました。



パーラー公民館の取り組み

常設の公民館がなかった曙地区では、公園にパラソルと黒板テーブルを置き、気軽に集える「機能としての公民館」が実現されました。スタッフはあえて「何もしない」ことで、住民主体の企画や活動が自然に生まれる余白を残しました。「完璧より余白が大事」という学びが印象的でした。



アイデア発想の工夫

「オズボーンのチェックリスト」を活用し、転用・拡大・逆転などの発想法でアイデアを広げるワークを行いました。



多世代で一緒に美味しい給食を食べながら語り合ったり、繋がりを作るために公園でお盆にボンジョビで踊ったり、ミッションを解きながら公園やまち歩きをしたり、居場所づくりとして絵の具水鉄砲で



アートづくりをしたり、迷路のような細い路地でスタンプラリーや防災訓練をしたり、朝の交通渋滞対策のための子どもの送迎を減らすウォークラリーをしたり、入れ替わりが激しいマンション不用品の受け渡しプラットフォームを作ったりなど、ユニークなアイデアが紹介されました。



合宿に向けて

今回の学びをもとに、9月27・28日の合宿では中間発表やワークショップ、カレー対決も予定されています。仲間と協働する中で生まれる化学反応を楽しみに、小さな一歩を形にしていきましょう！

懇親会

10月10日(金) 19:00～

参加可否表明をお願いします



第6回講座

10月21日(火)

18:30～21:00

なは市民活動支援センター 2階